

2026 年 9 月 25 日

報道各位

一般社団法人こども食堂支援機構

代表理事 秋山 宏次郎

売上 100%寄付食事会「モッタイナイ寄付バー」10 月 20 日始動

延べ 5 万人のこども達と実施する「食ロスこどもレスキュー プロジェクト」皮切りイベント

一般社団法人こども食堂支援機構（代表理事：秋山宏次郎、以下「当機構」）は、規格外野菜や賞味期限の 1/3 ルール等により行き場を失う「ワケアリ食材」を全国のこども食堂へ届け、延べ 5 万人のこどもと食ロスのない食文化を共創する「食ロスこどもレスキュー プロジェクト」を始動します。その皮切りとなるのが、10 月 20 日に港区産業振興センターで開催する「モッタイナイ寄付バー」です。こども食堂に直接届けることに向かないお酒類も含めたワケアリ飲食品を使った食事会を行い、参加者が支払う食事代（消費税・酒税を除く）の全額を食ロス削減プロジェクトへ寄付するという、国内でも珍しい仕組みの食事会です。

皮切りイベント	モッタイナイ寄付バー（第 1 回） 2026 年 10 月 20 日開催
会場	港区産業振興センター大ホール（最大 280 名収容）
最大の特徴	参加費（食事代）の 100%を食ロス削減プロジェクトへ寄付。
ゲスト	環境省サステナビリティ広報大使・滝沢秀一氏（お笑いコンビ「マシンガンズ」／著書『ゴミ清掃員の日常』）
プロジェクト全体目標	延べ 5 万人のこどもが「食ロスゼロごはん」の調理法を体得（全国 112 軒のこども食堂が協力表明済み）

■ 「飲食できる募金箱」——モッタイナイ寄付バーとは

「KIFU BAR」という取組みが 2017 年に始まりました。赤坂を中心に広がりを見せているこの取組みは、ドリンク代の 3 割を慈善団体に寄付するバーです。

「モッタイナイ寄付バー」は、この KIFU BAR のアップグレード版として、寄付率を 3 割から 100%に引き上げたことが最大の特徴です。ラベルの印字ミスや段ボール箱の汚れ、賞味期限の 1/3 ルールなど、安全性に問題がないにもかかわらず市場に出せなくなった食品・飲料を企業・生産者から寄贈いただき、それを食事会形式で提供。参加者が支払う食事代は「こども食堂食ロスゼロごはん普及プロジェクト（後述）」など、食品ロスの削減とこども食堂の支援を同時に実現するプロジェクトに全額寄付になります。

■ なぜ「モッタイナイ寄付バー」がプロジェクトの皮切りなのか

「食ロスこどもレスキュー プロジェクト」は、①こども食堂での食ロスゼロごはん普及プロジェクト、②モッタイナイ寄付バー、③モッタイナイ寄付ショップ（早稲田祭）という3つの手法で構成されますが、その原資となる寄付金・ワケアリ食材の受け皿として最初に立ち上げるのが、この10月20日のモッタイナイ寄付バーです。ここで確立する「安全なワケアリ食材を、飲食を楽しみながら100%寄付に変える」仕組みを、11月の早稲田祭（来場見込み20万人）や2回目の開催（11月25日、JAFAS サミット 2026）へと展開していきます。

■ 実施背景

規格外野菜や賞味期限の1/3ルール、外箱の軽微な汚れ・凹みなどを理由に、安全で美味しいにもかかわらず市場に出せない食品が数多く廃棄されています。事業者はこうした食品の焼却処分に費用を負担しており、生産者・事業者・消費者いずれにとっても「もったいない」構造となっています。当機構はこの構造にモッタイナイ寄付バーという出口を用意することで、廃棄コストの発生を防ぎながら、食料費高騰に悩む全国のこども食堂の運転リソースを生み出します。

■ プロジェクト全体の3つの手法

① こども食堂 食ロスゼロごはん普及プロジェクト

家庭の食ロスを削減する上で、食材の在庫チェックは欠かせませんが、「日頃から冷蔵庫などの食材の種類・量・期限表示を確認する」人はわずか32.8%（※）しかおらず、定着しないという課題がありました。そこで、カレー・鍋・揚げ物など、どんな食材も美味しくなる料理を「食ロスゼロごはん」と定義。食ロスゼロごはんを定期的に食べる習慣作りを通して定期的な在庫チェック定着を狙います。本プロジェクトでは全国のこども食堂に「食ロスゼロごはん」の食材費を助成し、こども食堂の運営者からこども達に「食ロスゼロごはん」の作り方を教えてもらいます。食ロス予備軍を自身の血肉に変える方法をこども達に体得してもらうプロジェクトです。

② モッタイナイ寄付バー（本リリースの皮切りイベント）

上記の通り、参加費100%を食ロス削減プロジェクトへ寄付する食事会。

③ モッタイナイ寄付ショップ@早稲田祭

②のショップ形式版。例年20万人が来場する早稲田祭（早稲田大学、11月7～8日）の教室内で実施し、寄付をいただいた方へワケアリの飲食物をお渡しします。

■ 実施スケジュール（いずれも報道関係者の取材可）

日程	名称	会場	概要
10月20日【皮切り】	モットイナイ寄付バー①	港区産業振興センター大ホール	プロジェクト始動の第1回イベント。参加費100%寄付。環境省サステナビリティ広報大使・滝沢秀一氏および「滝沢ごみクラブ」との共同開催。環境省助成によるこども食堂食ロスゼロごはんプロジェクトの実食会を同時開催。集客見込み100名。
11月7日～8日	モットイナイ寄付ショップ@早稲田祭	早稲田大学（早稲田キャンパス）	食品専門のワケアリ品寄付ショップ。早稲田祭全体の来場見込みは例年20万人。特別ゲストとして著名YouTuberの参加も調整中。
11月25日	モットイナイ寄付バー②	株式会社明治 本社ホール	食品大手を中心に20社以上が参画する食と農のサステナビリティ業界団体「JAFAS」アニュアルサミット2026の懇親会を兼ねて実施。集客見込み100名。

■ 代表理事 秋山宏次郎 コメント

「売上の3割を寄付するキフバーという取組みはここ数年広がってきましたが、今回、私たちはワケアリ食材の活用によってコストを極限まで下げることで、参加費の100%を寄付に回すことを実現しました。10月20日のモットイナイ寄付バーを皮切りに、この仕組みを早稲田祭や大手食品企業連合であるJAFASのアニュアルサミットへと広げ、こども達に『どんな食材も美味しく食べる力』を身につけてもらい、全国のこども達と一緒に食ロス問題を解決していきます。」

■ 一般社団法人こども食堂支援機構について

代表理事・秋山宏次郎が毎日新聞主催のシンポジウムで食品ロスの有効活用システムについて発表。聴講者の大手企業が保有していた廃棄予定の非常食2,000食と、聴講者のこども食堂運営者たちにマッチングしたことを機に2017年設立。以降、行政・企業と連携し延べ400万食以上を全国のこども食堂にマッチングしてきました。内閣府「地方創生官民連携SDGsプラットフォーム」の官民連携優良事例（初代）など表彰多数。

代表理事・秋山宏次郎は、国連・政府・企業と多数のプロジェクトを共創する事業共創家として活動。監修書籍『こどもSDGs』は15刷のベストセラー。内閣府・農林水産省・環境省・埼玉県・国連地域開発センター・慶應義塾大学・TEDxKioicho・朝日新聞・毎日新聞・防災ダボス会議など講演実績多数。

■ 第1回 モッタイナイ寄付バーの実施概要

開催日時：10月20日（火） 18:30～21:00

場所：港区産業振興センター11階（東京都港区芝5-36-4 札の辻スクエア）田町駅より徒歩4分

費用：2,000円（軽食つき）＋ドリンクキャッシュオン

【ゲスト】



環境省サステナビリティ広報大使

マシンガンズ 滝沢秀一（ゴミ清掃員の日常作者）



【詳細・お申込みはこちら】

<https://kifubar20261020.peatix.com/>

※ [消費者庁令和5年度第2回消費生活意識調査](#)

【本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先】

一般社団法人こども食堂支援機構 広報担当

Email：ko-akiyama@support-kodomo.org

TEL：090-9329-2032

URL：<https://www.support-kodomo.org/>

※10月20日「モッタイナイ寄付バー」は事前の取材申込みを承っております。協力表明済みの全国こども食堂112軒の現地の状況、写真素材等、取材にあたり追加資料が必要な場合はお気軽にお問い合わせください。